

2022 香港日本語教育セミナー概要
「多言語環境における年少者の日本語教育」
(Japanese Language Education for Youngsters in Multilingual Environment)

<池上摩希子教授 早稲田大学 大学院日本語教育研究科>

【講演会】

年少者日本語教育における「書く」活動の展開ーリテラシーを意識した実践を考えるー

概要：年少者に対する日本語教育において、「書く」という技能の重要性はよく言われています。その一方で、「書けない」「書きたくない」という子どもたちの様子も伝わってきます。本講演では、子どもたちは何を何のために書く必要があるのか、私たちはそれをどのように意識してどのように支援していけるのかについて、「リテラシー」をキーコンセプトとして改めて考えてみたいと思います。

【ワークショップ】

多言語環境で育つ子どもの力を生かすために何ができるかー「言語ポートレート活動」の実践からー

概要：多言語環境で育つ子どもたちは複数のことばを用いて成長しています。複雑で多様な言語文化状況におかれて、不安や抵抗を示すこともあります。このような場合、子どもたち自身が今もっている能力を資源と捉えられるような働きかけができるのでしょうか。このような考えから、「言語ポートレート活動」の実践を事例として紹介します。その後、グループに分かれて、感想を共有したり意見交換をしたりする予定です。

<柴山真琴教授 大妻女子大学 家政学部ライブデザイン学科>

【講演会】

日本語を継承語として学ぶ児童の書く力の発達過程ードイツ語・日本語バイリンガル児の縦断的作文調査の結果からー

概要：本講演では、ドイツの現地校と日本語補習授業校に通うバイリンガル児を対象に、小4から高1まで2年間隔で実施した縦断的作文調査の分析結果に基づいて、継承日本語学習児の日本語作文力が語・文・談話の3つのレベルでどのように変化していったのかを報告します。日本で生まれ育つ日本語モノリンガル児の書く力の発達過程も参照しつつ、継承日本語学習児の書く力の発達過程に見られる特徴を中心にお話したいと思います。

【ワークショップ】

子どもの日本語の育ちを包括的に捉えるための研究法ー独日国際児の事例研究からー

概要：私が代表を務める共同研究では、継承日本語学習児の日本語の育ちを包括的に捉えるために、行動観察、フィールドワーク(参与観察とインタビュー)、作文課題を組み合わせた調査デザインで研究を進めています。このワークショップでは、上記3種類の調査を行った独日国際児の事例研究に基づいて、二言語(日本語・ドイツ語)の作文力と三言語(日本語・ドイツ語・英語)の読書力が相互に関係しながら変化していった様子を紹介します。その後、グループに分かれて、意見交換をする予定です。